

令和2年度 第13回

地域移行支援(退院促進)セミナー

退院後の私の暮らし方 ～私を支えてくれたもの～

令和3年1月30日(土) 13:00～15:00

Web開催 (ZOOM使用)

13:05～ 開会の挨拶

13:15～ 行政報告

千葉県健康福祉部障害者福祉推進課

13:40～ 発表(事前録画配信の要旨の説明)

「退院後の私の暮らし」

- ・退院に至った経緯、日々の生活や困難、それを乗り越える工夫等について
- ・本人の生活を支える方、支え合っている方等から、サポートの仕方について

阿久津 雄気 氏 (2020年3月グループホーム入所。元々はグループホームの入所に懐疑的だったが、現在は職員さんに受容的に関わってもらいながら、自分らしい生活を送れている。)

サポーター：番場 勇介 氏 (みんなのまちグループホーム 所長)

長谷川 信 氏 (13歳で精神の病を発病。20歳までほとんど入院して過ごす。そこから退院して長い時間とプロセスをへて、一人暮らし。仕事は約20年したが現在無職。)

サポーター：水島 英行 氏 (生活クラブ風の村スペースびあ茂原、千葉県精神障害者ピアサポート専門員、そよかぜの会 in 茂原 代表)

※上記の登壇者に加え、社会福祉法人サンワークに協力を依頼。

退院後、福祉サービス等を活用しながら、2～3年程度地域生活を送っている方と、サポーターにもお話しいただく予定

13:55～ ディスカッション

上記発表を踏まえ、退院して自分らしい生活を地域でおくるためには何が必要か。

パネリスト：上記発表者およびサポーター

ファシリテーター：伊藤 順一郎 氏 (メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ)

飯ヶ谷 徹平 氏 (社会福祉法人フラット)

14:55～ まとめ・閉会の挨拶

※セミナーの趣旨

地域の中に病院があるにも関わらず、支援者の間では、「病院と地域」という表現が当たり前のように使われています。

それだけ様々な面で病院と地域のギャップが未だに大きいのだらうと思います。

そのようなギャップを乗り越え、退院して自分らしい生活を地域でおくるためには、どのような要素が必要になるのでしょうか。

今回のセミナーでは、退院後地域で生活する当事者と支援者にご登壇いただき、

退院に至った経緯、日々の生活や困難、それを乗り越える工夫などについてお話しいただくことになりました。

皆で「自分らしい生活」について、考えてみませんか？

※一般の方の参加も、多数お待ちしております。

参加費：無料

後援：千葉県・千葉市・株式会社千葉日报社

主催：NPO法人千葉県精神保健福祉協議会